



2021年 2月

第308号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会 長 花輪 宗命
 副会長 山本 英次
 書 記 長谷川あや子
 会 計 小口 多津子
 直前会長 並木 信一
 担当主事 中里 敦
 プリテン 山本 英次・茂木 稔
 大久保 重子

国際会長 Jacob Kristensen(デンマーク) 主題 価値観、エクステンション、リーダーシップ スローガン「命の川を信じよう」
 アジア太平洋地域会長 David Lua(シンガポール) 主題:「変化をもたらそう」
 スローガン;「奮い立たせよう」
 東日本区理事 板村 哲也(東京武蔵野多摩) 主題:「変化を楽しもう」
 副題:「助け合い、分かち合い」
 あずさ部部長 御園生 好子(東京サンライズ) 主題:「変わるに挑戦!」
 クラブ会長 花輪 宗命 主題:「すべてに感謝」

2月例会プログラム

【TOF 例会】(ZOOMにて開催)

日 時: 2月27日(土曜日) 18:00~20:00
 場 所: 北野事務所 2階大会議室
 (担当A班 中里、長谷川、菅野、小口)
 司 会: 小口
 Zoom 操作: 中里
 開会点鐘 花輪会長
 ワイズソング (一番のみ) 一 同
 ワイズの信条 一 同
 ゲスト・ビジター紹介 会 長
 聖書朗読・黙祷 長谷川
 卓話に代って・・・クラブ内での話し合い
 ・クラブにとってのEMC
 ・東日本大震災から10年
 ・次期会長の抱負、体制

YMCA 報告 中里主事
 ハッピーバースデー 花輪会長
 報告・連絡事項 会長、各担当
 閉会点鐘 花輪会長

※Zoomへの入室URLは前日までに中里さんから連絡あり。

巻頭言

在京ワイズ会長会の報告

花輪宗命

掲題の在京ワイズ会長会が、1月9日(土)14時から、オンラインで開かれました。その概要について、ご報告します。私は、ワイズメン歴が短いため、各種の会議の位置づけが余り良く解っておらず、歴代の先輩会長のご指導を仰ぎながら、漸く会長としての任務を果たしていますが、掲題の在京ワイズ会長会も、半可通の状態に参加しました。

初参加して解ったことは、在京ワイズ会長会は、その名の通り、東京圏のワイズメンズクラブの会長と担当主事が顔を合わせて、親睦と情報交換をする会でした。

従って、日頃お付き合いのあるあずさ部の会長さん達の外、東新部など首都圏の会長さんや担当主事との面識を頂き、大変有意義な会議でした。

在京ワイズ会長会は、例年、この時期に対面で開かれているよ

先月の例会ポイント (1月)

在籍	13名	切手(国内・海外)	33g
メン	6名	累計	1,640g
メーキャップ	0名	現金	0円
出席率	46%	累計	0円
メネット	0名	スマイル	17,500円
ゲスト	0名	累計	59,050円

今月の聖句 (2021年2月)

兄弟愛をいつも持っていなさい。旅人をもてなすことを忘れてはなりません。そうすることで、ある人たちは、気付かずに天使たちをもてなしました。自分も一緒に捕えられているつもりで、捕えられている人たちの思いやり、また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人たちの思いやりなさい。

(新約聖書・ヘブライ人への手紙 13:1~3)

うですが、既述のように、今年はコロナ禍の影響で、オンラインで開かれました。未だ不慣れな ZOOM での会でしたが、対面式で一度に十数クラブの会長さんと関係する YMCA の担当主事さんとお会いしても、なかなか全員のお顔とお名前を覚えることは難しいのに対し、ZOOM ではそれが可能になったので、寧ろ「怪我の功名」でした。

会議では、最初に参加者全員が、自己紹介を兼ねて今年度の各クラブの活動状況を報告しました。各クラブは、ご多分に漏れず、コロナ禍の下でこれまで続けてきた活動がままならず、中止や延期に追い込まれたところもあったようですが、それぞれが、オンラインを活用したり、活動内容を密にならないような工夫を凝らしたりして、頑張っている事例が報告され大変参考になりました。

当クラブでもやってみて解ったことですが、止む無くオンラインで例会を開くことになった結果、遠方のクラブのメンバーがゲストとして参加できるようになったことも「怪我の功名」だったことも解りました。

また、クラブによって、関係するYMCAとパートナーシップを組んで、様々な形態の事業を展開していることが解り、これも大変勉強になりました。

全体の進行は、八王子クラブの会員でもある中里さんが司ってくれましたが、そのような「重鎮」が当クラブのメンバーであることを誇らしく思いました。

国際会長選挙について

久保田貞視

ワイズメンズクラブ国際協会の国際会長は、定義によれば、ワイズメンズクラブ国際組織の最高責任者であり、国際議会の議長を務める。推薦制で任期は1年。就任の2年前に全世界のクラブ会長の投票で選ばれ、次の1年は次期国際会長としての役が与えられ、その後国際会長として職務を全うすることになる。

職務は国際憲法に準じて、行政役員の長として国際議会の議長を務めること、「国際会長主題」を掲げて世界のワイズメンにワイズ活動の指針を与えること、毎月の国際会長レポートがある。

そのため、国際会長の資質は最低英語でのコミュニケーションスキルを持ち、人格高潔で教養があり、指導力がなければならない。また、ワイズメンズクラブでの執行能力・運営能力が試されるため、各地域会長もしくは各区の理事を経験していることが必要である。毎年、12月ごろに2年先の国際会長選挙は一定の条件を満たしたクラブの会長による選挙で決まるので各会長の責任も重い。

毎回、国際会長には複数の地域から候補者がでて、その中からクラブ会長は国際会長を選ぶことになるが、あまり、地域に偏ることなく地域間のバランスを考慮して投票することが求められる。

一つの事例として、ワイズメンズクラブの評価を高め、実りある大会とするために、客観情勢を考慮して開催地の地元でも知られているような人物(ワイズマン)を候補者として選出する例も多

い。

いずれにしても国際会長はワイズメンズ活動にとって極めて重要な職務につき、クラブ会長は全員、投票権を行使しなければならぬ。

空高く、揚がった「希望の凧」

小口多津子

東日本大震災から10年目の今年ですが、絶望と悲しみを皆で共有し、希望へで始まった「揚がれ、希望の凧」。そのキャンペーンが10年を迎えて節目の今年が最後の年になるのですが、今回もコロナ禍の為に昨年に続いて、キャンペーンとしての凧揚げは止む無く、中止せざるを得ないとのアナウンスが、主催者側代表の奈良昭彦さんから入りました。

2012年3月から始まったこのプログラムは、全国、また海外(米国、英、伊、ハンガリー、タイ、パレスチナ)へと広がり、ホームページで見る世界の凧揚げの写真は、災害の大きさがどこまでも浸透しているのを実感しました。

八王子クラブでもすぐに2012年3月11日に高尾の森「わくわくビレッジ」で、1回目を実施。22名の参加者、メンバー、友人、他クラブの皆さんでした。凧の製作を木工室で、2時46分に黙祷、広場で凧揚げをしました。当時の会長は酢屋さん。この日は全国でワイズ他も含めて27カ所とのことでした。私は空高く糸の先の凧を見上げた時、青空の「凧揚げ」と「東北の空」を繋げたこのキャンペーンの絶妙さにとっても感動しました。

この1回目に参加された、今でも忘れられない1人の小学生。凧に大きく太く「復興」という字を書きました。ニュースで知った光景が目から離れられなかったのでしょうか。この彼とはその後、2018年の3月の恒例チャリティーコンサートの会場で、6年振りにお会いしました。長谷川さんが連れてこられた「復興の彼」は、何と中央大学学生となって会場を手伝って下さっていました。こんなにも成長したのに、復興はまだまだ先です。

次の2013年の3月9日もわくわくビレッジで。中大学Y生ひつじぐもから3人が応援に、彼らの子供たちへの対応が優しかったことが印象にあります。黙祷前のメッセージを山本さんがされました。50人(うち子供22人)の参加で、会長は茂木さん。

2014年は3月8日に高幡不動駅の裏の浅川の河川敷の公園でした。28名の参加者。メッセージは中大学Y生の中野幹久君。前年に福島の子供達を励ましに滞在した経験が話されました。この年の会長は並木さん。この年度で、クラブとしての凧揚げは終わりました。まず、会場探しと、クラブ主催のコンサートや街頭募金が重なり予定が取れないことが理由でした。

いつか、本当に復興を遂げた日には、また皆で思い切って大空に凧を揚げたいと、そんな日を心から待ち望みます。

西東京センター便り

西東京コミュニティセンター センター長 中里 敦

早くも新しい年が始まって1ヶ月が過ぎました。年末年始の宿泊キャンプは中止となり、今は春のスキーキャンプの準備を進めていますが、実施できることを願うばかりです。

西東京センターというより自身のことになりませんが、緊急事態宣言、コロナ感染者数の増加により、プログラムを中止にするのか、実施にするのか惑わされ、企画したプログラムも収束のめどが立たずできるのかどうかと、常に考えさせられる日々に心身ともに疲れが少しずつ溜まっていきます。特にゴールが見えないことが一番辛く感じます。

そのような状況ですが、仕事や生活にも変化があった1年でした。仕事では、オンラインでのミーティングが増えたことです。会って話すことも大切に感じますが、移動の時間などを考えると時間の無駄がたいぶ減ったように感じます。また、あまりありませんが、リモートワークだと往復で約3時間の通勤時間が無くなるのは仕事の上でとても有効的です。生活では今まで以上に家にいる時間が長くなったことです。その時間に映画鑑賞をするようになりました。この1年で数えきれない数を観ました。観たいと思っていたものから、推薦してもらったものまでジャンルも問わず楽しんでいきます。レンタル屋で興味を引くタイトルを見つけたときは早く観たいと嬉しくなります。時には期待外れだったり、あまり心に残らなかつたりするものもありますが、深く考えさせられたり、感動したり、笑ったりとそんな心の動きがリフレッシュになっている気がします。TVの無い生活をしていたのでPCの小さな画面で観ていたのですが、つい最近TVをもらい迫り感の違いも楽しんでいます。この生活はコロナが収束しても続きそうです。

ひつじぐも便り 1月

国際ボランティアサークル

ひつじぐもワイズ係 渡辺伊純

寒い毎日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。私は1月の下旬から大学のレポート試験があり、忙しい毎日が続いておりましたが無事に終わり春休みに入りました。2年生の1年間は全ての授業がオンラインでした。初めての経験だったため、戸惑うことも多々ありましたが、世界各国にいる留学生の友人と繋がることができたり、大人数で議論し合ったりすることができたりしてオンラインならではの良さを発見しました。また、大学からの連絡では4月から対面授業を徐々に再開していく様なので、友達とキャンパスで勉強することができると思うと、とても楽しみです。

ようやく春休みになり、1月下旬にひつじぐもではオンライン定例会を行い、2021年度に行きたいボランティアを1年生と一緒に話し合いました。1年生達は一度も対面でのサークル活動を行っていないため、たくさんの案や意見が挙がりました。4月からは、そのようなサークル部員の声に応えられるようボランティア活動も段階的に再開出来ればと思います。

私は最近、地元の徳島県について興味を持ち勉強しています。私は大学進学とともに上京し、今回一時的に徳島で生活してみて、徳島県の良さを再認識しました。そこで今回は、徳島県の東部にある神山町での地域活性化の取り組みについて少しご紹介します。神山町では2人に1人が高齢であるといわれ、深刻な高齢化問題に直面しています。しかし、2004年に町内全域に光ファイバーが整備され、最近では東京や大阪のIT企業が神山町内にサテライトオフィスを開設し始めました。

今後も徳島県についての勉強を続け、将来は、地域の活性化や社会の発展に貢献できる人材になりたいと思っています。

今月の聖句によせて (2021年1月)

“まだあげ初めし前髪の、林檎のもとにみえしとき 前にさしたる花櫛の 花ある君と思ひけり“

藤村翁の旧詩 初恋の一節を志す 八十媪 ゆふ

自宅の居間の壁に、ふるえたような字で書かれた、茶色にくすんだ色紙をかけています。島崎藤村の有名な“初恋”の詩の一節で、詩の相手モデルと言われる“ゆふ(ゆう)”さん、自筆の色紙です。懐かしい20歳の思い出として飾っています。

1963年の秋、大学3年生であった私は、一人、八王子から鈍行の中央線に乗り、木曾の大桑村にあるというラジウム鉱泉の宿屋を探して、大桑村役場にきました。対応してくれた若い役場の男性職員の方からは、この宿は、現在改修中で営業はしていないと告げられました。途方にくれたような私の顔を見て、その職員は気の毒に思ったのでしょうか。“今日はわたしの家に泊まりますか？もうすぐ仕事が終わりますから待って下さい。”と声をかけてくれました。その後、当時はまだあまり多くはなかった自家用車で、役場からはかなり距離があったと記憶する、その方の自宅(大きな民家)まで連れて行かれました。ご家族で歓迎して下さい、風呂や豪華な夕食までご馳走になり、楽しいおしゃべりのなかで、石川啄木や島崎藤村の名前もできました。“ちょっと待って下さい”と言い、“差し上げますよ”と家人が持って来てくれたのが先の“色紙”でした。

そのお宅は、藤村の“初恋”の詩のモデルとされ、自筆で“八十媪、ゆふ”と署名した色紙の作者、“林ゆう”さんの実家だったので。ヘブライ人への手紙13章のこの聖句、“旅人をもてなすことを忘れてはなりません”を読みたばに、なつかしくも、ありがたく、この時の光景を思い出すのです。初対面で、素性もわからない学生を快く招き入れ、歓待して下さい、木曾のあの家族いまいどうしているだろう。私もあの家族のようでありたいと願うのです。

並木 信一

高尾の森わくわくビレッジ便

高尾の森わくわくビレッジ館長 菅野牧夫

年末年始の人の動きの問題がコロナウイルス感染者数の爆発的な拡大をうけて、政府は今年度2度目の緊急事態宣言を発令したことに伴い1/8(金)から2/7(日)でわくわくビレッジも協力をするようになりました。前回の緊急事態宣言ではすべての業務に対して自粛するように盛り込まれていましたが、今回は宿泊業務についての自粛は含まれておりません。わくわくビレッジではイレギュラーな運営を余儀なくされました。宿泊については通常通り、施設利用についてはレストランも含み夜の8時までの営業に変更になりました。開設以来初めての時短営業に、予約システムの変更、予約者への変更点の連絡確認、キャンセルや返金の処理、利用者の混乱等、通常の業務ではあまり出会わない出来事にスタッフも混乱し、バタバタしながら対応しております。

緊急事態宣言の発令に比例して宿泊者のキャンセルも増えてきています。この秋から1ヶ月の宿泊人数が500名ぐらいで推移してきましたが、1月は300名を下回る数字、2月においては100名を切る人数になってきています。年間の宿泊者数も6分の1から7分の1ぐらいになる予想です。

今まで宿泊者の多くは学校団体でしたが、今年は軒並み宿泊イベントを中止してしまっています。しばらくの間は個人のお客様をいかに獲得していくかということが大きな課題です。わくわくビレッジではインターネット広告、施設紹介の動画、インスタグラムの活用などをし、家族やママ世代にアピールをして少しでも多くの方がわくわくビレッジを知ってもらうように活動を進めています。ワイズの皆さんもホームページやインスタ(takao_wakuwakuで検索してください)をフォローしてください。



氷の張ったビオトープ

例会報告 1 月度

〈報告〉

2021年1月第一例会

日時:2021年1月23日(土)13:00~14:40

(緊急事態宣言が出て、北野事務所の夜間使用が出来なかったため、午後1時~3時開催となった)

会場:北野事務所小会議室(担当C班)

出席:久保田・中里・並木信一・花輪・長谷川・茂木(以上6名)

〈報告〉

・2020年前期会計報告

・在京ワイズ会長会(Zoom)について報告

・国際会長選挙について

〈討議事項・今後の予定〉

・2月第一例会:2月27日(土)18時~

(担当A班)北野事務所大会議室

緊急事態宣言が続き、夜間の使用が出来ない場合はZoom例会とする。

・あずさ部第2回評議会:2月13日(土) Zoom評議会

・第23回チャリティコンサートについて

3月13日(土)14時~16時北野市民センター

緊急事態宣言が続いた場合は今年のチャリティコンサートは中止とする。

・次期の次々期理事及び次期監事について

希望の風揚げ 高尾わくわくヴィレッジにて



2012年3月11日

2月の誕生祝い

2月21日 久保田佐和子さん